

慢 自 家 小 子

第19号

名前のない古代寺院 関戸廃寺跡

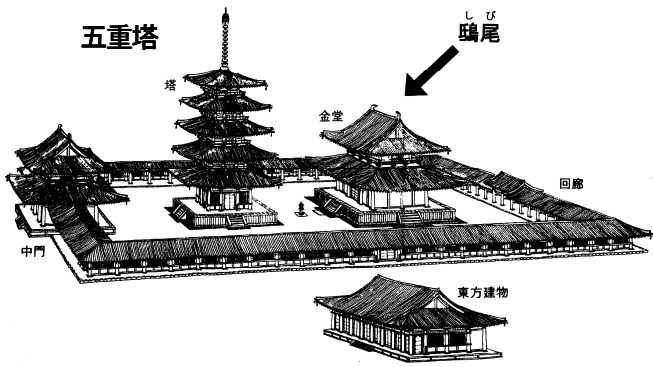
5月5日、笠岡市関戸地区で発掘された関戸廃寺の取材に子ども新聞部員4名と指導者・保護者あわせて12名で、大型自家用車2台に乗って行きました。

謎に包まれた寺院

関戸廃寺は、笠岡市関戸にある古代の寺院跡です。1962年(昭和37年)に塔跡の発掘調査が行われています。出土した遺物から、この寺は今から1300年前に建てられてきたかえましたが、800年前に絶えてなくなったことがわかりました。

この寺の正式名称や誰が建てたのかといったことは分かっていませんが、笠岡市内最古の寺院跡であり貴重な遺跡です。(六年 岡本拓真)

この寺院の規模は東西130m、南北130mで、南東側が欠けた五角形の敷地でした。また本尊を祀る中心的な建物で礎石建物であったと思われる金堂や、金堂に次いで建てられた五重塔、そして僧侶が集まる



関戸廃寺の中心部 復元想像図
(これは、山田寺の復元想定図を利用して作成したものです)

ロードナビゲーション

笠岡小学校から県道を追分方面に向かって進み、大井ハイランド入口の追分交差点を右に曲がります。しばらく行くと笠岡消防署北出張所があります。その前を右に曲がり矢掛へ向かう旧道を進んで行くと吉田小学校があります。そこからさらにもう少し進むと右手の田んぼのあぜに関戸廃寺と書いた小さな看板が立っています。



広場の入口に、『岡山県指定史跡関戸廃寺』の解説板があります。(五年 森兼 慧)

塔の中心にある石の土台

広場の中心に、石でできた塔の柱を支える心礎と呼ばれる土台があります。形は、四角形で一辺、240cmほどの正方形です。厚さは分かりません。

心礎には、直径が95cmの柱を乗せるくぼみが掘ってあります。ここに寺のシンボルとなる高い塔を支える心柱が立っていたと思われ、上の想像図にある五重塔の心柱の土台と考えられます。



(五年 森兼 慧)

心柱の芯をつめた穴

心柱の直径は95cmと思われませんが、さらにその中心に直径40cmの深い穴が心礎の中に掘ってあります。

この深い穴には、壺に入れてお釈迦様の骨を納めて、お祀りしていたそうです。心礎の周りに焼け焦げたあとが残っていたことから、平安時代に火事で建物が無くなったのではないかと言われています。

今は田んぼばかりで周りに何も無い所に、大きな古いお寺があったことに、おどろかされます。(五年 森兼 慧)



(五年 森兼 慧)